

## みずほマーケット・トピック(2022年8月12日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

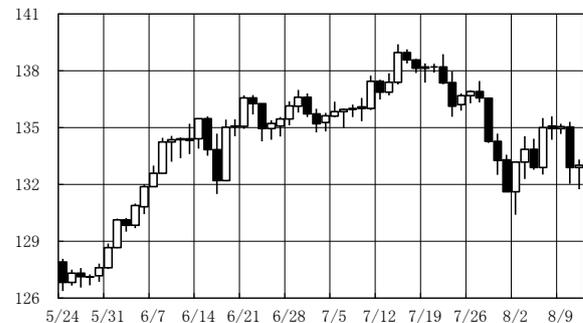
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週半ばに急落した。週初8日、135.10円付近でオープンしたドル/円は先週末の米7月雇用統計の力強い結果を受け一時週高値の135.58円まで上昇、その後は米金利低下を横目に一時134円台前半までじり安に推移した。売り一巡後は主要な経済指標の発表がない中で動意に欠け135円台前半での値動となった。9日、ドル/円は翌日に米7月CPIの発表を控え様子見ムードが拡がり、終日を通して135円ちょうどを挟んでの上下動となり動意に乏しい展開となった。10日、ドル/円は前日の流れを受けて東京時間では135円台前半で膠着状態だったが、米7月CPIが市場予想を下回る結果となるとFRBの大幅利上げ観測が後退し、また米長期金利の急低下も相まって132円ちょうど付近まで急落した。ドル売り一巡後は、複数のFRB関係者のタカ派的な発言に132円台後半まで反発した。11日、ドル/円は東京休場の中、133円台前半まで上値を伸ばすも、海外時間での米7月PPIの結果が前日の米7月CPIに続いて伸び率が鈍化したことで一時週安値の131.74円まで値を崩した。その後は米長期金利の急上昇に133円台前半まで値を戻した。本日のドル/円も133円前半での取引が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は週半ばから後半にかけて急伸した。週初8日、1.0175付近でオープンしたユーロ/ドルは先週末からのドル買いが継続し、一時週安値の1.0160まで値を下げるも、その後は米金利低下に伴うドル売りにサポートされて1.02台前半まで反発。終日、1.02ちょうどを中心に方向感に欠ける値動きとなった。9日、1.01台後半で小動きだったユーロ/ドルはエネルギー供給危機を巡る過度な悲観が後退すると一時1.02台半ばまで上昇。その後は翌日に米7月CPI発表を控えたポジション調整の動きや米金利上昇に伴うドル買いに1.02台前半まで値を下げた。10日、ユーロ/ドルは米国の7月CPIの結果を受けたドル売りが強まり一時週高値の1.0369まで急伸。その後は米長期金利が上昇に転じ1.03ちょうど付近まで反落した。11日、ユーロ/ドルは米7月PPIの市場予想を下回る結果を受けて前日の高値付近まで上昇も、その後は米金利上昇に伴うドル買いに1.03台前半まで再び下落した。本日のユーロ/ドルもその水準での取引が継続している。

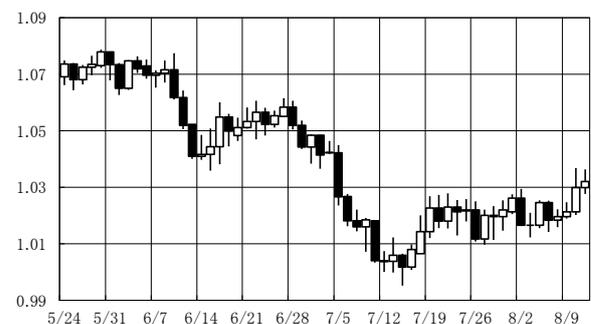
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		8/5(Fri)	8/8(Mon)	8/9(Tue)	8/10(Wed)	8/11(Thu)
ドル/円	東京9:00	132.61	135.08	134.85	135.21	132.76
	High	135.52	135.58	135.20	135.30	133.30
	Low	132.53	134.36	134.67	132.03	131.74
	NY 17:00	135.02	135.01	135.14	132.89	132.98
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0247	1.0173	1.0198	1.0207	1.0299
	High	1.0251	1.0222	1.0248	1.0369	1.0364
	Low	1.0142	1.0160	1.0189	1.0202	1.0276
	NY 17:00	1.0196	1.0194	1.0213	1.0299	1.0319
ユーロ/円	東京9:00	135.90	137.47	137.60	138.03	136.72
	High	137.72	137.89	138.29	138.50	137.39
	Low	135.85	137.08	137.28	136.63	136.34
	NY 17:00	137.45	137.69	138.04	136.88	137.39
日経平均株価	28,175.87	28,249.24	27,999.96	27,819.33	-	
TOPIX	1,947.17	1,951.41	1,937.02	1,933.65	-	
NYダウ工業株30種平均	32,803.47	32,832.54	32,774.41	33,309.51	33,336.67	
NASDAQ	12,657.56	12,644.46	12,493.93	12,854.81	12,779.91	
日本10年債	0.16%	0.17%	0.16%	0.19%	0.19%	
米国10年債	2.83%	2.75%	2.78%	2.78%	2.89%	
原油価格(WTI)	89.01	90.76	90.50	91.93	94.34	
金(NY)	1,791.20	1,788.96	1,794.00	1,813.70	1,807.20	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、17日(水)に、FOMC 議事要旨(7月会合分)の公表が予定されている。7月 FOMC では前回6月会合に続いて75bpsの利上げを決定。FF金利誘導目標は2.25~2.50%となった。6月にアップデートされたメンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)では2022年の中央値は3.375%となっている中で、9月以降の利上げ幅についてFRB関係者の情報発信が相次ぐ状況となっている。とは言っても、FRBの政策スタンスとしてインフレ抑制を第一とする姿勢は変わっていない。今後は景気減速の度合いも政策運営の上で配慮されてくる雰囲気はあるものの、「年内は利上げ」という一点に関してFRBの政策指針は現状においてぶれそうにない。今回の議事要旨においてはこうした内容を確認することとなりそう。なお、経済指標関連では本日12日(金)に8月ミシガン大学消費者マインド(速報)が公表される。7月の結果は51.5と過去最低を記録した6月の50.0から改善。長期インフレ期待については2.9%と昨年8月までの水準まで低下したが、短期インフレ期待は5.2%と引き続き高止まりが続いた。
- 本邦では18日(木)に4~6月期GDP(速報)の発表を控える。1~3月期GDP(改定値、以下同様)は前期比▲0.1%(前期比年率▲0.5%)となり、2四半期ぶりのマイナス成長となった。1~3月期はオミクロン株の拡大によってまん延防止等重点措置が再度適用され、これがGDPを下押しした。個人消費は前期比+0.1%に留まり、自動車や家電といった耐久財の販売は速報ベースから上方修正されたものの、同▲0.8%とマイナスに落ち込んだ。この他、速報ベースから設備投資、公共投資が下方修正されたことも足を引っ張る格好となった。なお、21年度の実質GDP成長率は前年比+2.2%で速報の同+2.1%から僅かに上振れた。今次公表の4~6月期GDPに関しては、まん延防止等重点措置が撤廃されたものの、経済優先の防疫政策に転換したとは言い難く、大きく持ち直すことは考えにくい。なお、ブルームバーグの事前予想では4~6月期GDPを前期比+0.7%(前期比年率+2.7%)と見込んでいる。その他の経済指標関連として、19日(金)には7月全国CPIが公表予定となっている。

	本 邦	海 外
8月12日(金)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏6月鉱工業生産</li> <li>・米7月輸出/輸入物価指数</li> <li>・米8月ミシガン大学消費者マインド(速報)</li> </ul>
15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4~6月期GDP(速報)</li> <li>・6月鉱工業生産(確報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米8月NY連銀製造業景気指数</li> </ul>
16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月第3次産業活動指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米7月鉱工業生産</li> </ul>
17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月貿易収支</li> <li>・6月コア機械受注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏4~6月期GDP(修正値)</li> <li>・米FOMC議事要旨(7月会合分)</li> </ul>
18日(木)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏7月CPI(確報)</li> <li>・米8月中古住宅販売件数</li> </ul>
19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月全国CPI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏6月経常収支</li> </ul>

### 【当面の主要行事日程(2022年8月~)】

ジャクソンホール経済シンポジウム(8月25~27日)  
 ECB政策理事会(9月8日、10月27日、12月15日)  
 FOMC(9月20日~21日、11月1~2日、12月13~14日)  
 日銀金融政策決定会合(9月21~22日、10月27~28日、12月19~20日)

市場営業部・金融市場部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	週末版(IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて)
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	週末版(7月+50bp利上げに舵を切るのか)
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でこずるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グループ化構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)
	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月14日	悲惨指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～)
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～
2022年6月8日	金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～
2022年6月7日	要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～
2022年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～
2022年6月3日	週末版(旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～)
2022年6月2日	変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望
2022年5月31日	31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方
2022年5月27日	週末版(ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～)
2022年5月26日	ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～
2022年5月25日	ブログで政策修正を図ったECBの真意
2022年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年4月分)
	週末版(円安相場は終わりのか？～先行きは夏場以降の政治次第～)
2022年5月19日	本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～
2022年5月17日	ECB、「行動の夏」が意味するところ
2022年5月16日	円のREERは変動相場制以前の水準へ
2022年5月13日	週末版
2022年5月12日	米4月CPIと今後の考え方について
2022年5月11日	インバウンド解禁と円安抑制の関係性
2022年5月10日	「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～
2022年5月9日	「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について
2022年5月6日	週末版(FOMCを終えて～「50bps～25bps」のプレーキが重要～)
2022年5月2日	円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～
2022年4月28日	週末版
2022年4月27日	ECB、7月利上げ説は本当なのか？
2022年4月25日	円安にまつわるQ&A:よくある疑問の論点整理
2022年4月22日	週末版
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年3月分)
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～勝負は6月合会に～)
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レール理事に同調～
2022年4月8日	週末版(本邦2月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～)
2022年4月7日	FOMC議事要旨～株値に対し非常に厳しい内容～
2022年4月6日	「日本売り」を認められない論陣をどう評価するか
2022年4月5日	過去最低を更新したドル比率～世界の外貨準備運用～
2022年4月1日	週末版(細る対内証券投資～今後も嫌われそうな日本市場そして円～)
2022年3月30日	日銀とトルコ中銀の類似性～ルールにも負ける円～
2022年3月28日	円安のメリット・デメリット～優勝劣敗の徹底～
2022年3月25日	週末版
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年2月分)
	「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版(GDPデフレーターに注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～)
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三歩進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～)
2022年3月9日	経常赤字は新常态なのか？～「債権取り崩し国」へ～
2022年3月8日	賃金上昇が遅れるユーロ圏、「嵐の前の静けさ」か？
2022年3月4日	週末版
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシステムリスクになるのか？
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～